

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	熊本高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クマモトコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ、インターンシップ1、インターンシップ2
	学部・研究科等名	本科・専攻科の全学科
	担当教職員名・役職	村山 浩一・キャリア教育推進室副室長
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	160
	受入企業等数	112
	受入企業等名	ANAラインメンテナンステクニクス、ATOUN、CTCテクノロジー、CTI グランドプランニング、DESIGNSTUDIOCROW、DIC、FEBACS、JAL エンジニアリング、jigip、JMACS、JXTGエネルギー、JXエンジニアリング、KJケミカルズ八代工場、NTTインフラネット九州支店、アイランドウェイフリピン、アドバンスドプランニング、いすゞエンジニアリング、エイアンドティー、エキスパートパワーシズオカ、オムロン阿蘇、カネカ高砂工業所、カネカ高砂工場、カンセツ、キャノン、コスモ石油千葉製油所、コニカミノルタジャパン、サッポロビール九州日田工場、サントリーホールディングス、ソニーコーポレートサービス、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、トノックス、パーソル R&D、フリーダム、プレシード、ペアールルートシステムクス、メタウォーター、旭化成、一級建築士事務所黄木設計室、宇部興産、荏原製作所、化学及血清療法研究所、花王、関西電力、協和発酵バイオ、興人フィルム&ケミカルズ、極東興和、九州沖縄農業研究センター 他
インターンシップの分類	2.有給インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	在学中に産業界及び公共機関等において、自らの専攻又は将来のキャリアに関連した就業体験を行うことを目的とする。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	4年次・5年次、1年次・2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位～4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として、本科は5日間以上のインターンシップ参加で1単位を発行。専攻科は5日間のインターンシップ参加を1単位として、10日間参加で2単位、15日間以上参加で3単位、20日間以上参加で4単位を発行。なお、1社でのインターンシップは最低5日間以上で、複数の企業でのインターンシップ日数を合計して単位の発行可。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	

	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習では、インターンシップへの心構えやマナー、準備等について指導している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習では、報告書の作成および発表会の実施を行い、報告書については次年度以降の学生にも参考になるよう冊子として纏めている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	一部の企業においては、実施にインターンシップ指導教員がインターンシップ先を訪問し、学生の実施状況を視察したり、企業担当者と実施状況についての情報交換を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	高専機構で設定されたモデルコアカリキュラムに沿った到達目標について、本科4年生の年度当初(インターンシップ前)と年度末(インターンシップ実施後)について自己アセスメントを実施し、学生自身の到達度を点検させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として、単位を発行するためには企業にインターンシップ受入企業に従事した連続した5日間以上を条件としている。ただし本科については、不可避な理由で連続した5日間が確保出来なかった場合、複数の企業での従事日数が合計5日間以上であれば、単位を認めることがある。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にととの意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	一部の企業については、事前に企業担当者とインターンシップ担当教員とで実施内容について打ち合わせ、出来るだけ効果のあるインターンシップになるよう毎年改善を図ると共に、インターンシップ終了後は、インターンシップ受講学生、企業担当者、インターンシップ担当教員とで実施内容や待遇等について意見交換会を実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	本科 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=47&department_id=15&subject_id=0238&year=2015 専攻科 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=47&department_id=22&subject_id=0035&year=2013
問い合わせ先	大学等名	熊本高等専門学校八代キャンパス
	担当部署名	学務課学務係
	担当者役職名	課員
	担当者氏名	藤本 直斗
	電話番号	0965-53-2231
	メールアドレス	g-gakumu@kumamoto-nct.ac.jp